



## 合唱祭とは

先週は暑い日が多かったせいか、午前中の授業でも下敷きをパタパタをさせている人がちらほら見えた。面白かったのは水泳部のF君（35Rではありません）で、必選の古文の授業中に下敷きでパタパタと自分の首筋から顔にかけて風を送っていたのだが、つい気持ちよくなってしまったのだろう、ウツラウツラしはじめて、半分寝ながらあおいではビクッとなって目を覚まし、またまたウトウトしてはビクとなり…を繰り返していた。よく小さな子供が眠気と戦いながら？ご飯を食べている映像がネット上にいっぱいアップされていてかわいらしいが、まあ、F君そのものはかわいらしくは全くないのだが（失礼）、その体の動きや雰囲気は、なかなかかわいらしいものであった。ちなみに、私に指名されても何も答えられず、さらなる笑いを誘ったのは言うまでもない。

\*

金曜日の朝は女声が練習をされていて、35Rの隣の国語科職員室にはその声が届いているわけだが、なかなか美しい「どんたくばやし」のハーモニーであった。譜面を見ながら難しいところをさらっていたらしく、途切れ途切れの状態、まだまだ全体像を見渡すといった状態ではないのだろうが、十分に完成が期待されるデキだった気がする。

一方、男声の練習の時には、ハーモニー云々までたどりついていないというのが現状だろうが、去年の合唱祭の講評では、確か「男声が素晴らしい」とのことだったはずで、これからの練習でしっかり磨きこめば光が増すに違いない。男声と女声が合わさった時のきらめきが楽しみである。

しかし、「恋唄・空」にしても「どんたくばやし」にしても、どちらも面倒な曲であることは確かであって、両方歌いこなすのはやはりなかなか至難の技といえるだろう。上手くいけばきらめくが、下手をすると、何のきらめきもないまま終わってしまう可能性も少なくはない。●●くんと●●くんが心配するのも無理はないのである。いや、それ以上に、それを合唱部として実際に取り組んだ●●くんや●●さんや●●さんは、やきもきしているに違いない。

そうはいっても、去年と比べると、だいぶ協力する人が増えているとも聞いている。朝7:30に集まるのは大変だろうし、放課後も、引退を前にして最後の努力を続けている人や、塾や予備校に通い始めた人がいたりして、思い通りには集まらない現状があるようだ。

しかし、だからこそ、自分のできる範囲で協力する姿勢を大切にしたいものだ。なかなか練習に出られないなら、出られた時には、そのわずかな時間が無駄にならないように、自分でも余計なおしゃべりをしないように心掛けたり、おしゃべりをしている人がいたら注意してみたりしたらどうだろう。放課後、部活や塾・予備校で練習に出られなければ、朝練には遅刻しないで参加するようにしてみてもどうだろう。そういう思いやり・配慮が積み重なる中で、クラスの歌のきらめきもましてくるのではなかろうか。

合唱祭とはそういうものだと私は思う。歌のきらめきが、クラスの、そしてクラスのメンバーのきらめきと同期する、そんな過程が合唱祭というものなのではなかろうか。